

# 筑前あさくらJA米

1.種子更新率100% 2.食味向上(タンパク含有率6.8%以下) 3.仕上げ水分14.5~15.0% 4.作付比率の厳守

# 令和8年産 稲作ごよみ

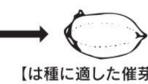
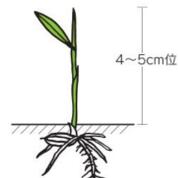
## 米は全量JAへ!!-JA米基準-

- 銘柄が確認できた種子
- 登録検査機関で受検した米
- 栽培履歴記帳が確認された米
- 残留農薬分析を実施した地域の米
- 環境負荷低減米穀の取り組みとして、中干し・秋耕を実施

## 筑前あさくら農業協同組合 朝倉地域担い手・産地育成協議会

- 農業適正使用スローガン
- 1 散布前に必ず農薬ラベルを確認!
  - 2 散布時に、近隣作物や住宅街への飛散防止を徹底!
  - 3 水田では、農薬散布後の止水期間(7日間)を遵守!
  - 4 散布後に、必ず散布器具(タンク、ホース等)を洗浄!
  - 5 防除履歴は、正確に記帳!

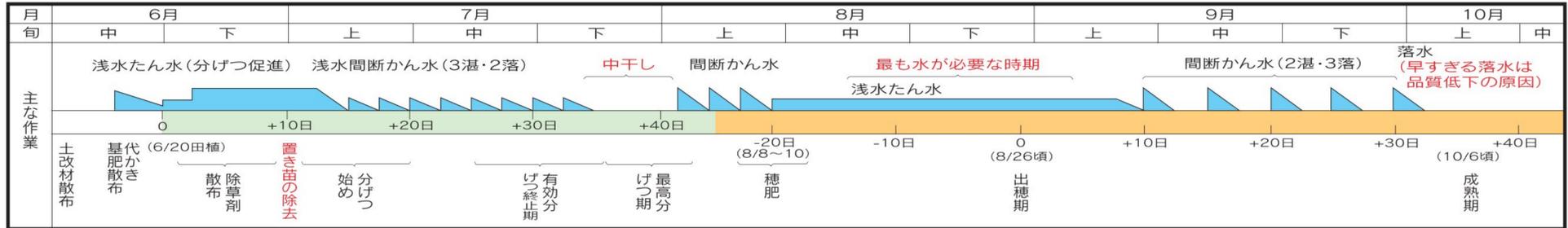
## 1.育苗基準 (老化苗・病害予防のため23日苗とする)

播種日よりの日数	主な作業																		
育苗準備期間	<p>◎育苗箱は10a当たり20箱準備する。(ほ場未整備田では必要に応じて増やす。)</p> <p>◎栽培履歴での適正な証明・品種固有の特性維持・病害虫予防のため、毎年<b>全量種子更新</b>を行う。</p> <p>◎<b>種子は10a当たり2.5~3kg</b>準備する。</p> <p>◎<b>土は10a当たり、あさくら培土4袋</b>または山土等100kg(5斗)を準備する。 山土には、70箱分の床土に育苗化成1kg(1袋)の割合で混和する。 山土2に対して珪酸くん炭1の割合で混和する。</p> <p>◎育苗期の<b>病害予防</b>のため、必ず<b>薬液か温湯</b>による<b>消毒</b>を行う。 【温湯消毒】手法についてはJA営農センターか普及指導センターへ尋ねる。</p> <p>【薬液消毒】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種もみ(乾もみ)</th> <th>水</th> <th>浸漬時間</th> <th>農薬名</th> <th>使用量(希釈倍率)</th> <th>対象病害虫</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5kg</td> <td>10ℓ</td> <td>24時間</td> <td>テクリードCフロアブル</td> <td>50ml(200倍)</td> <td>いもち病・ばか苗病</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>スミチオン乳剤</td> <td>10ml(1,000倍)</td> <td>イネシガレンセンチュウ</td> </tr> </tbody> </table> <p>上記にベンレート水和剤を20g(500倍)混用し、薬液消毒後、風乾し、浸種する。</p>	種もみ(乾もみ)	水	浸漬時間	農薬名	使用量(希釈倍率)	対象病害虫	5kg	10ℓ	24時間	テクリードCフロアブル	50ml(200倍)	いもち病・ばか苗病				スミチオン乳剤	10ml(1,000倍)	イネシガレンセンチュウ
種もみ(乾もみ)	水	浸漬時間	農薬名	使用量(希釈倍率)	対象病害虫														
5kg	10ℓ	24時間	テクリードCフロアブル	50ml(200倍)	いもち病・ばか苗病														
			スミチオン乳剤	10ml(1,000倍)	イネシガレンセンチュウ														
0	<p>◎<b>芽立ちを均一な状態に揃えるため、浸種日数を充分にとる。</b></p> <p>◎種子は播種前日の夕方にあげる。(ハト胸から1mm程度) →  (は種に適した催芽状態)</p> <p>◎播種前に床土に充分かん水後、苗立枯病予防のため<b>ナエファインフロアブル1000倍液を1箱500mlかん注する。</b></p> <p>◎<b>播種量は1箱催芽粉で130g(1.1合)</b>を基準とする。(100箱分:水50ℓにナエファインフロアブル50ml)</p> <p>◎覆土は充分に行う。(種子が隠れる程度)</p> <p>◎<b>苗箱は日当たりが良く風通しの良い場所に並べ、被覆資材で被覆する。</b></p>																		
1	<p>◎被覆期間中のかん水は、土が乾いたら1日1回被覆資材をはずして行う。</p> <p>◎<b>徒長防止のため、苗の長さが4~5cm位になったら被覆資材を除去する。</b> →  <b>元気つくしは苗が伸びやすいので他の品種より1~2日早く除去する。</b></p> <p>◎かん水は、覆土が乾いてから行う。 根張りを良くし、徒長を防止するため、夕方のかん水は極力避ける。</p> <p>◎<b>弁当肥を施す。(田植前4~5日)</b> 日中の高温・乾燥時には施さない。(葉焼防止)</p> <p>※箱施薬剤は、確実に1箱当たり50g施用しないと防除効果が劣る。 ※栽植密度は、60株/坪。(目安 19cm×30cm) ※ジャンボタニシ発生田では浅水管理を行い、スクミン等を散布する。</p>																		
7	<p>◎<b>もみ枯細菌病対策</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.種子消毒の実施</li> <li>2.播種量は催芽粉130g(1.1合)</li> <li>3.風通しの良い場所に並べる</li> <li>4.被覆資材を長期間かけない</li> <li>5.水をかけすぎない</li> </ol> <p>【被覆資材除去の目安】 4~5cm位</p> <p>【目標とする苗の姿】 第3葉 13cm位 第2葉 第1葉</p>																		
8	<p>◎<b>硬化する</b></p> <p>◎<b>田植</b></p>																		

## 水稲品種特性表 (6月20日田植)

品種名	出穂期	成熟期	耐病性		耐倒伏性	栽培上の留意点
			いもち病	白葉枯病		
夢つくし	8/15	9/20	弱	やや弱	やや強	いもち病に著しく弱いので適期防除に努める。
元気つくし	8/19	9/26	弱	中	やや弱	
ヒノヒカリ	8/26	10/6	やや弱	やや弱	やや弱	刈り遅れると著しく品質が低下するので、適期収穫に努める。

## 2.水管理 <ヒノヒカリの水管理例(6月20日田植)> ※夢つくし・元気つくしでは中干しの開始時期が早くなる。



以下の時期を除き原則として生育期間を通して間断かん水を行う。  
 ●田植後10日~2週間は活着促進とジャンボタニシ予防のため浅水たん水を行う。 ●田植後35日前後から中干しを開始する。(中干し期間は7日~10日間で強すぎないようにし、その後は徐々に間断かん水を行う。)  
 ●幼穂形成期~出穂~開花期は水が最も必要な時期なので浅水たん水を行う。(幼穂形成期:出穂の20日前頃) ●台風接近時は深水にして風によるしおれを防ぐ。 ●充実を良くするため落水は収穫前7~10日に行う。

## 3.土づくり対策

資材の分類	資材名	施用量(10a当たり)	備考
有機質	万能堆肥	2t	腐植の増加 土壌通気性、保水性の向上 耕起前に確実10kg/10aを施用(麦わらの分解促進) 間断かん水の励行(根痛み防止)
	麦わら	全量	
けい酸質	けい酸加里	40~60kg	カリの供給
	ミネラルG	200kg	微量元素の供給
	ケイ鉄		鉄分の供給

## 4.施肥基準

施肥の留意点  
 ・基肥一発肥料は、省力化を目的とした施肥例のため、年次により収量が減少することがある。  
 ・原則として追肥、穂肥は施用しない。  
 ・側条施肥の場合は、施肥量を5kg/10a減肥する。

品種	肥料名	施肥量(10a当たり)	成分(%)			成分量(10a当たりkg)			
			N・P・K	N	P	K	N	P	K
夢つくし	Jコート2000	40kg	20・10・10	8.0	4.0	4.0			
元気つくし ヒノヒカリ	Jコート2000中稲	40~45kg	20・10・10	8.0~9.0	4.0~4.5	4.0~4.5			

【分施の施肥体系】

品種	肥料名	施肥量(10a当たり)	成分(%)			成分量(10a当たりkg)			
			N・P・K	N	P	K	N	P	K
夢つくし	ちくごのめくみ444	基肥 40kg	14・14・14	5.6	5.6	5.6			
	きばる穂肥エムコート	穂肥 15kg	20・0・16	3.0	0	2.4			
元気つくし ヒノヒカリ	ちくごのめくみ444	基肥 40kg	14・14・14	5.6	5.6	5.6			
	きばる穂肥エムコート	穂肥 15~20kg	20・0・16	3.0~4.0	0	2.4~3.2			

## 6.病害虫防除基準

(箱施薬剤を使用することを前提とした構成となっているので、箱施薬剤を使用していない場合は、本田防除の効果が不十分となることがある。)

品種	夢つくし・元気つくし			品種	ヒノヒカリ		
時期	粉	液	ヘリ防除	時期	粉	液	ヘリ防除
箱施薬	ブーンゼクテラ箱粒剤 50g/箱 (は種時~田植当日) 又は スクラム箱粒剤 50g/箱 (は種時~田植当日) (いもち病・白葉枯病・もみ枯細菌病・ウンカ・コブノメイガ)			ただし、白葉枯病・もみ枯細菌病に対しては、移植3日前~田植当日 ※散布後は薬剤が土の表面に落ちるようかん水する			
8月	上旬	いもち病の補正防除.....出穂30日前~5日前にコラトップジャンボPを10~13個/10a散布。		上旬	病害虫の発生にあわせて ・オーケストラロムダンモンカット粉剤DL (紋枯病・ウンカ・コブノメイガ) 4kg/10a (出穂・開花期は使用を避ける) ・オーケストラロムダンモンカットエア 1000倍 (ウンカ・コブノメイガ・紋枯病) ・スタークル液剤10 1000倍 (カメムシ・ウンカ) (出穂・開花期は使用を避ける)		
	中旬	病害虫の発生にあわせて ・ダブルカットバリダレポン粉剤3DL (いもち病・紋枯病・カメムシ・ウンカ) 4kg/10a (出穂・開花期は使用を避ける) ・スタークル液剤10 (カメムシ・ウンカ) 1000倍 (出穂・開花期は使用を避ける)		中旬	出穂直前 ・ダブルカットバリダレポン粉剤3DL (いもち病・紋枯病・カメムシ・ウンカ) 4kg/10a (出穂・開花期は使用を避ける) ・ノンプラスバリダフロアブル (いもち病・紋枯病) 1000倍 (出穂・開花期は使用を避ける) ・スタークル液剤10 (カメムシ・ウンカ) 1000倍 (出穂・開花期は使用を避ける) 又は キラップフロアブル (カメムシ・ウンカ) 1000倍 (出穂・開花期は使用を避ける) ※ただし、イネカメムシには効果が劣る		
	下旬	ウンカ・カメムシの補正防除.....スタークル液剤10 1000倍 スタークル粉剤DL 3kg/10a スタークル豆つぶ 250g/10a		下旬	出穂直前 ・ダブルカットバリダレポン粉剤3DL (いもち病・紋枯病・カメムシ・ウンカ) 4kg/10a (出穂・開花期は使用を避ける) ・ノンプラスバリダフロアブル (いもち病・紋枯病) 1000倍 (出穂・開花期は使用を避ける) ・スタークル液剤10 (カメムシ・ウンカ) 1000倍 (出穂・開花期は使用を避ける) 又は キラップフロアブル (カメムシ・ウンカ) 1000倍 (出穂・開花期は使用を避ける) ※ただし、イネカメムシには効果が劣る		
9月	上旬	いもち病の補正防除.....スタークル液剤10 1000倍 スタークル粉剤DL 3kg/10a スタークル豆つぶ 250g/10a		上旬	ウンカ・カメムシの補正防除.....スタークル液剤10 1000倍 スタークル粉剤DL 3kg/10a スタークル豆つぶ 250g/10a (飛散防止対策)・作物別、品種別の団地化 ・風のない時に農薬散布 ・畦畔から圃場の内側に向かっての散布		

※防除をする際は、たん水状態で散布することで効果が安定します。  
 ※粒剤の使用にあたっては営農センター・普及指導センターへお尋ね下さい。(粒剤は早い時期の予防散布用なので注意)

農薬、肥料、資材の注文はJAへ!

「令和8年度版病害虫・雑草防除の手引き」 <https://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/bojonotebiki.html>

注) 農薬は令和8年1月15日現在の登録状況に基づき、記載しています。